

2010年度 学校自己評価の報告

「学校教育法」および「学校教育法施行細則」に基づき、2010年度に本校が実施した「学校自己評価」の内容を次の通り報告します。

I. 実施方法

校内に自己評価委員会を設置、同委員会で「自己評価アンケート」を作成した。調査対象は本校の教職員（非常勤講師、実習助手、臨時職員は除く）とし、1月末に実施、同年2月に集計・分析を行ない、3月に設置者（理事会）に報告した。

実施日：2011年1月19日アンケート用紙配付、1月19～31日の期間に回収

調査対象：本校教職員（教員91名、事務職員9名）

評価項目：1. 学校運営 2. 教育内容 3. 生徒指導・支援 4. 教育研修・資質向上 の4分類について、それぞれに評価の観点項目を設けて評価を行った。

なお、評価結果を検討するにあたり参考データとして「職域」「本学園の勤務年数」の調査（基礎調査）も行った。

評価方法：4段階評価で実施した。

- | | | | |
|--------------|---------------|-----|--------|
| A.よくあてはまる | B.ややあてはまる | ……… | プラス評価 |
| C.あまりあてはまらない | D.まったくあてはまらない | ……… | マイナス評価 |

II. 2010年度の「教育の目標」と「重点目標」

教育の目標	本校の教育理念を浸透させ、「自主・自律」の精神と幅広い「職業観」を養う。
今年度の重点目標	・「あいさつ・掃除・身だしなみ」の徹底 ・目的を持った進路選択と進学実績の向上

総合評価

教育目標の「職業観の養成」に関する取り組みは、「企業探究学習」を基点とした系統的なキャリア教育「Josho Career-Up Challenge」への発展、また、関連する授業や行事にも具体的な活動として反映され、学校全体に浸透している。しかし、「全生徒たちに十分伝え切れているか」についてはまだ不安な点も多く、今後も検討を続ける必要がある。

重点目標である“「あいさつ・掃除・身だしなみ」の徹底”に関して、「あいさつ」や「掃除」の習慣はかなり定着している。「身だしなみ」に関しても年々改善されているが、教員の力量による指導力の差も見られる。この重点目標が学校改革の基本となることを各教員が理解し、今後も統一した指導の実践を進めていきたい。

“目的を持った進路選択と進学実績の向上”に関しては、進学実績は着実に伸びているが、国立上位難関校の数値はまだ十分とは言いがたい。指定校推薦入試や次年度から始まる学内進学制度により、大半の生徒が安易な進学方法に流れる傾向も増加し、進路目的の明確化とモチベーションの持続を目指した新たな進路指導システムの構築が望まれる。

Ⅲ. アンケート項目別評価

1. 学校運営

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

分類	評価の観点	評価項目	設問	評価割合(%)			
				A	B	C	D
学校運営	私学の独自性	建学の精神について	建学の精神が教職員、生徒、保護者など、学校関係者によく浸透している。	12.0	55.0	30.0	3.0
		愛校心について	在校生、卒業生は学校に誇りを持っている。	18.0	66.0	14.0	2.0
	教育課程	学習指導要領の対応状況	教育課程は学習指導要領に沿って編成されている。	68.0	24.0	8.0	0.0
		教育計画について	年間を通じた教育計画を立て、各教科のシラバスにも反映されている。	48.0	46.0	4.0	2.0
	教職員連携	教員・教科間連携状況	教員間教科間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。	28.0	50.0	21.0	1.0
		教員と事務職員の連携状況	教員と事務職員の情報交換の機会があり、相互理解、連携がとれている。	19.0	48.0	27.0	6.0
		会議の有効性	各種会議は有効で効率的な議論がされ、職員会議で的確な報告がなされている。	10.0	43.0	32.0	15.0
	情報公開	ホームページの活用状況	学校ホームページで可能な範囲の情報公開をしている。	62.0	30.0	6.0	2.0
		授業公開状況	保護者などへ授業を公開する機会があり、積極的に広報されている。	50.0	38.0	10.0	2.0
	危機管理	役割分担について	事故、事件、災害時に対処する役割分担が明確にされている。	22.0	55.0	17.0	6.0
		危機管理対応状況	危機管理マニュアル、警察、消防との連携、訓練など学校の安全対策は十分とられている。	24.0	59.0	12.0	5.0
	開かれた学校づくり	地域交流について	地域や地域住民との交流ができています。	11.0	39.0	38.0	12.0

- ・ 教育理念の「職業観の育成」はキャリア教育の授業に反映され、生徒や教員間にも浸透してきた。しかし、「建学の精神」との関連が十分伝わっていないのが現状である。日常的に「建学の精神」「学園の歴史」を学ぶ機会を多くしたい。「愛校心」については活発な学校行事や部活動などにより着実に育成されており、さらに成果発表活動やその対外的な評価がさらに「愛校心」を生み出している。今後の取り組みとして、まず教員自身が学校の歴史を学び「建学の精神」と「教育の理念」の関係を十分に理解し、より実践的、具体的な教育活動に反映させたい。
- ・ 教育課程、教育計画は学習指導要領に沿った内容で実施している。各コース目標に沿ったシラバスの作成と更新、コース目標設定や授業の見直しが高評価に繋がっている。今後もさらに改善を重ね、計画実現に向けてのより具体的な指導方法の確立を目指す。
- ・ 会議の有効性については、まだ十分な評価が得られていない。各種会議が発展的な内容を検討する場に至っていない面も多い。今後の課題として、各種会議の目的や存在意義を再検討し、会議の

再編も含め運営方法や連絡体制も見直す必要がある。

- ・ ホームページは高い評価が得られた。また、保護者向け携帯電話網サービスや公開授業、成果発表行事への保護者参加率の増加、さらに登下校情報配信システムも稼動して学校生活に関する情報公開についても高評価が得られた。公開授業については次年度も継続して実施する。
- ・ 高校内の安全点検、防災訓練、AED講習会などの定期的な実施、また学園全体での防火・防災委員会の設置やマニュアルの整備、災害時行動ハンドブックや防災カードの作成などにより、徐々に評価は得られているがまだ十分とはいえない。新校舎建設工事期間中で避難経路が変化するなど不安な要素が残っていた。今後は、高層棟を意識した有効な避難経路を含む防災体制の確立を目指す。教員個々の危機管理意識の差を埋め、迅速な報告体制の整備し、さらに現場で柔軟な対応できるような能力を育成したい。
- ・ 登校時の朝の立ち番、「Osaka City Project」の取り組み、また工学実験フェアへの参加など地域交流の機会は着実に増加しているが、学校全体としての取り組みとしての認知がなく地域交流についてはまだ評価が低い。学校も地域の一員であることを常に意識し、通学時の挨拶の徹底など地道な活動を続けながら、地域住民や小中学校生徒と交流できるような教育活動を展開したい。

2. 教育内容

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

分類	評価の観点	評価項目	設問	評価割合(%)			
				A	B	C	D
教育内容	情報教育	情報能力育成	生徒の情報活用能力の育成を図っている。	40.4	48.5	10.1	1.0
		情報モラル指導	情報の発信に伴う責任など情報のモラル面の教育に十分取り組んでいる。	20.0	55.0	24.0	1.0
	人権教育	研究体制	人権尊重に関するさまざまな課題や指導方法を教員が研究する体制がある。	15.0	45.0	33.0	7.0
		教育体制	人権尊重の教育において、さまざまな学習方法で、意識を高める教育を行っている。	11.0	51.0	33.0	5.0
	環境教育	環境問題意識向上	ゴミ、リサイクル、省エネなど身近な問題から環境への関心を高める教育をしている。	20.0	55.0	22.0	3.0
		実践的態度の育成	生徒に清掃、校内美化に取り組ませている。また、施設・設備を大切にすることを育成している。	35.0	37.0	24.0	4.0
	キャリア教育	キャリア教育の推進	教育目標に沿って組織的・系統的にキャリア教育に取り組んでいる。	56.0	34.0	9.0	1.0
	健康・食育	健康・食に関する指導について	健康教育、食育などにも配慮している。	14.0	40.0	33.0	13.0
	生徒会活動	生徒会活動支援状況	生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援している。	18.2	54.5	20.2	7.1
	その他	読書推進	図書館の利用促進など読書指導に取り組んでいる。	22.2	45.5	27.3	5.1
		部活動	部活動は活発だ。	72.7	24.2	1.0	2.0
		ボランティア	地域や学園と連携し、ボランティア活動を活発に行なっている。	15.0	56.0	22.0	7.0
		学校行事	体育祭、文化祭などの学校行事は活発だ。	45.0	40.0	13.0	2.0
		スポーツ・芸術文化	スポーツ活動、芸術文化活動を計画的に教育活動に取り入れている。	34.0	42.0	21.0	3.0
国際理解		他国の歴史・文化の理解、異文化交流など国際理解に対する教育活動を取り入れている。	12.0	32.0	44.0	12.0	

- ・ 情報機器の充実や授業成果の発表機会も増えて情報処理能力や活用能力は高まっている。一方、各種の啓蒙活動によりネット上のいじめの問題等は起こっていない。次年度は携帯電話の校内持ち込みが許可になることも考慮し、新たな指導方法の確立と情報モラルの指導強化に力を注ぎたい。
- ・ 人権教育に関しては研究体制、教育体制共にまだ十分な評価を得られていない。生活環境や進路目標の異なる多様な生徒の増加に対応が追いつけない現状が伺える。時代の変化や生徒の実態に応じた人権教育のあり方を改善したい。
- ・ 新校舎移転や上履き制移行に伴い清掃や校内美化に対する指導意識は高まっている。ゴミの分別やリサイクル運動にも積極的に取り組む姿勢が増加した。しかし、指導にばらつきが見られ、担任の観察力や指導力に依存している部分も大きい。各教員が教育環境の変化を敏感に意識し、統一した基準で指導できる体制を作りたい。
- ・ 系統的なキャリア教育「Josho Career-Up Challenge」は順調な発展を見せている。講演会や成果発表会もさらに充実、本校の教育理念である「職業観」の育成にも貢献している。「企業探究学習」では昨年に続き全国大会に出場、審査員特別賞を受賞するなど、キャリア教育の推進は高く評価されている。今後も更なる教育内容の充実を図り、個々の生徒に応じた「目的を持った進学」の実現に邁進したい。
- ・ 健康教育や食育に関しては教員が統一してその重要性を指導する体制になっていないため評価が低い。食生活は各家庭での協力が必要な部分も多く、徹底した指導は難しく感じられる。新レストラン完成に伴い新たな取り組みを進めたい。
- ・ 生徒会活動の中心となる球技大会、体育祭がグラウンド状態不良のため縮小や延期、また、文化祭も新校舎建設工事中の限られた状況での運営であったが、生徒会と教員の連携が評価に現れている。しかし、生徒間では生徒会活動に積極的に参加する気運がまだまだ少なく、一部教員の指導に頼る現状も見られる。今後は、生徒会を中心として生徒自身が主体的に活動する機会をさらに増やし、掲示物だけでなくホームページ等も利用して生徒会の活動状況を広く発信すると同時に、学外への活動にも目を向けて学校全体の活性化を図りたい。
- ・ 部活動の評価は非常に高い。恵まれた環境と部活動担当者の献身的な取り組みによるところが大きい。学校行事やスポーツ活動、各種の授業成果発表会の実施に関しては活発なものと評価されている。ボランティア活動は定着しつつあるが読書指導とともに評価はまだ十分とはいえない。国際理解の評価は非常に低い。海外語学研修が一部生徒の関心ごとに留まり、学内での国際交流や異文化交流の機会がほとんどないことが主な要因と考えられる。来年度は留学制度の充実を進め国際理解教育のあり方を考えたい。読書推進に関しては初期指導の重要性を意識し、中学、高校共に新入生には図書館利用指導をさらに充実させると同時に、読書タイムの導入、調べ学習を主体とする授業への導入など、啓蒙活動だけに留まらない具体的な施策をさらに打ち出す必要がある。ボランティア活動に関してはボランティア委員会の活性化を図り、学園内大学のサークルと連動して高大連携の活動を行う。いずれにおいても文化的活動の土壌を養成するため、部活動と同様に指導教員の育成にも力を注ぎたい。

3. 生徒指導・支援

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

分類	評価の観点	評価項目	設問	評価割合(%)			
				A	B	C	D
生徒指導・支援	生徒指導	指導方針の一貫性	学校の方針に従い、一貫した生徒指導を行なっている。	30.0	48.0	18.0	4.0
		生活指導について	生徒の生活指導に組織的に取り組んでいる。	35.0	48.0	13.0	4.0
		家庭との連携状況	家庭と連携した生徒指導が行なわれている。	27.0	53.0	17.0	3.0
	生徒支援	学習指導について	学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている。	39.4	46.5	12.1	2.0
		カウンセリング体制	カウンセリングについて教員全体が研鑽を積み、十分な知識を持って支援にあたっている。	6.1	36.4	45.5	12.1
		進路指導について	生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができるような支援体制がある。	26.0	59.0	14.0	1.0

- ・ 生徒指導に関しては総じて評価が高い。問題行動の件数も激減し、長期にわたる指導の歴史を積み重ねてきたことが現在の評価に繋がっている。保護者への連絡体制も整いつつあり、良い方向に向かっている。今後も社会環境、家庭環境の変化を迅速に察知し、木目細やかな対応をさらに心がけたい。また、個々の教員判断ではなく統一した指導基準の制定に力を注ぎたい。
- ・ 生徒面談の定着、大学・専門学校の学内説明会や大学体験の実施、オープンキャンパス等への参加奨励、「Josho Career-Up Challenge」に代表されるキャリア教育の導入など、生徒の実態に合った学習や進路指導は評価されている。しかし、特別な配慮を必要とする生徒も増加傾向にあり、カウンセリング体制は年々改善されているものの、効果がすぐに表れる分野ではないことも影響し、カウンセリング体制の評価は低い。個々の教員が資質を高めると同時に、カウンセラーの増員も含めてサポート体制の充実に取り組みたい。

4. 教員研修・資質向上

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

分類	評価の観点	評価項目	設問	評価割合(%)			
				A	B	C	D
教員研修・資質向上	教員研修	教員の資質向上について	教員が授業力向上に励み、教員間で授業内容の評価、意見交換などを行う機会がある。	40.0	48.0	11.0	1.0
		校内研修	効果的な校内研修計画を立案し教職員に実施している。	42.4	34.3	20.2	3.0
		初任者のサポート状況	初任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制がある。	26.3	29.3	32.3	12.1
		校外研修	校外研修を受ける体制が整っており、教員が計画的、効果的に研修している。	18.4	40.8	26.5	14.3
		研修成果の共有状況	研修、研究に参加した成果を、他の教員に伝えて情報を共有する体制がある。	13.3	39.8	35.7	11.2

- ・ 授業アンケート、満足度調査の実施や報告会、授業公開、定期的な校内研修会に加え、各教科の取り組み状況報告会などの施策により教員の資質向上や校内研修体制は年々評価が向上している。校外研修が個人の資質向上に役立ち、結果として全体の向上に繋がっている面もあるが、研修内容の共有は十分とはいえない。研修制度の整備をさらに進め、今後の取り組みとして成果を共有できる体制作りを推進する。また、初任者への教科や学年集団でのサポート体制を強化したい。

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

分類	評価の観点	評価項目	設問	評価割合(%)					
				A	B	C	D		
学校運営	私学の独自性	建学の精神について	建学の精神が教職員、生徒、保護者など、学校関係者によく浸透している。	12.0	55.0	30.0	3.0		
		愛校心について	在校生、卒業生は学校に誇りを持っている。	18.0	66.0	14.0	2.0		
	教育課程	学習指導要領の対応状況	教育課程は学習指導要領に沿って編成されている。	68.0	24.0	8.0	0.0		
		教育計画について	年間を通じた教育計画を立て、各教科のシラバスにも反映されている。	48.0	46.0	4.0	2.0		
	教職員連携	教員・教科間連携状況	教員間教科間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。	28.0	50.0	21.0	1.0		
		教員と事務職員の連携状況	教員と事務職員の情報交換の機会があり、相互理解、連携がとれている。	19.0	48.0	27.0	6.0		
		会議の有効性	各種会議は有効で効率的な議論がされ、職員会議で的確な報告がなされている。	10.0	43.0	32.0	15.0		
	情報公開	ホームページの活用状況	学校ホームページで可能な範囲の情報公開をしている。	62.0	30.0	6.0	2.0		
		授業公開状況	保護者などへ授業を公開する機会があり、積極的に広報されている。	50.0	38.0	10.0	2.0		
	危機管理	役割分担について	事故、事件、災害時に対処する役割分担が明確にされている。	22.0	55.0	17.0	6.0		
		危機管理対応状況	危機管理マニュアル、警察、消防との連携、訓練など学校の安全対策は十分とられている。	24.0	59.0	12.0	5.0		
	開かれた学校づくり	地域交流について	地域や地域住民との交流ができています。	11.0	39.0	38.0	12.0		
	教育内容	情報教育	情報能力育成	生徒の情報活用能力の育成を図っている。	40.4	48.5	10.1	1.0	
			情報モラル指導	情報の発信に伴う責任など情報のモラル面の教育に十分取り組んでいる。	20.0	55.0	24.0	1.0	
人権教育		研究体制	人権尊重に関するさまざまな課題や指導方法を教員が研究する体制がある。	15.0	45.0	33.0	7.0		
		教育体制	人権尊重の教育において、さまざまな学習方法で、意識を高める教育を行っている。	11.0	51.0	33.0	5.0		
環境教育		環境問題意識向上	ゴミ、リサイクル、省エネなど身近な問題から環境への関心を高める教育をしている。	20.0	55.0	22.0	3.0		
		実践的態度の育成	生徒に清掃、校内美化を取り組ませている。また、施設・設備を大切にすることを育成している。	35.0	37.0	24.0	4.0		
キャリア教育		キャリア教育の推進	教育目標に沿って組織的・系統的にキャリア教育に取り組んでいる。	56.0	34.0	9.0	1.0		
健康・食育		健康・食に関する指導について	健康教育、食育などにも配慮している。	14.0	40.0	33.0	13.0		
生徒会活動		生徒会活動支援状況	生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援している。	18.2	54.5	20.2	7.1		
その他		読書推進	図書館の利用促進など読書指導に取り組んでいる。	22.2	45.5	27.3	5.1		
		部活動	部活動は活発だ。	72.7	24.2	1.0	2.0		
		ボランティア	地域や学園と連携し、ボランティア活動を活発に行なっている。	15.0	56.0	22.0	7.0		
		学校行事	体育祭、文化祭などの学校行事は活発だ。	45.0	40.0	13.0	2.0		
		スポーツ・芸術文化	スポーツ活動、芸術文化活動を計画的に教育活動に取り入れている。	34.0	42.0	21.0	3.0		
	国際理解	他国の歴史・文化の理解、異文化交流など国際理解に対する教育活動を取り入れている。	12.0	32.0	44.0	12.0			
生徒指導・支援	生徒指導	指導方針の一貫性	学校の方針に従い、一貫した生徒指導を行なっている。	30.0	48.0	18.0	4.0		
		生活指導について	生徒の生活指導に組織的に取り組んでいる。	35.0	48.0	13.0	4.0		
		家庭との連携状況	家庭と連携した生徒指導が行なわれている。	27.0	53.0	17.0	3.0		
	生徒支援	学習指導について	学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている。	39.4	46.5	12.1	2.0		
		カウンセリング体制	カウンセリングについて教員全体が研鑽を積み、十分な知識を持って支援にあたっている。	6.1	36.4	45.5	12.1		
		進路指導について	生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができるような支援体制がある。	26.0	59.0	14.0	1.0		
教員研修・資質向上	教員研修	教員の資質向上について	教員が授業力向上に励み、教員間で授業内容を評価、意見交換などを行う機会がある。	40.0	48.0	11.0	1.0		
		校内研修	効果的な校内研修計画を立案し教職員に実施している。	42.4	34.3	20.2	3.0		
		初任者のサポート状況	初任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制がある。	26.3	29.3	32.3	12.1		
		校外研修	校外研修を受ける体制が整っており、教員が計画的、効果的に研修している。	18.4	40.8	26.5	14.3		
		研修成果の共有状況	研修、研究に参加した成果を、他の教員に伝えて情報を共有する体制がある。	13.3	39.8	35.7	11.2		

0% 25% 50% 75% 100%